# 駒澤大学

## 坪井ゼミ　　片岡チーム

「ヒューマンライブラリーによる多様性に寛容なまちづくりプラン」

| 参加メンバー（敬称略） | |
|---|---|
| チームリーダー：片岡　直人（3 年） | |
| 阿部　　裕（3 年） | 鎌形　　晶（3 年） |
| 朱　　天南（3 年） | 田中　友梨（3 年） |
| 長谷川貴史（3 年） | |
| 指導教員：坪井　　健（文学部社会学科　教授） | |

# ヒューマンライブラリーによる
# 多様性に寛容なまちづくりプラン

## 駒澤大学社会学科坪井ゼミ３年（30 期生）

### ＜提案の要旨＞

１．**【現状分析】**世田谷区は、総人口は 87 万人で都内最大である。人口構成も多様性に富み、特に５人に１人が高齢者である。区内在住の外国人の出身国は 120 カ国にのぼる。肢体不自由・知的障害者などの障害者も増加傾向にある。産業構成も農業からサービス業まで多様な構成である。世帯構成は、核家族世帯と単独世帯が大半で、小家族化・個人化が顕著であり、世代間交流機会も狭まっている。

２．**【調査結果】**世田谷区内の公共・民間の交流施設は 600 施設以上ある。NPO 団体も延べ約１５００団体あり、区民交流の場は豊富である。そこで私たちは区民交流の実態を調べるため、主要 11 箇所をインタビュー調査した。その結果、明らかになったことは、施設利用団体やメンバーが固定化し、交流活動のマンネリ化と停滞が顕著に見られることである。さらに、異なる世代・異なる文化的背景の持つ者の交流活動があまりみられない。

３．**【課題・問題点】**このような世田谷区の人口構成・人口動態と交流施設のインタビュー調査から言えることは、世田谷区民交流の活性化のためには、誰もが気軽に参加可能な交流の場が必要であり、同質的な仲間だけでなく、異質な人々との交流、多様性に寛容な交流を生み出す仕掛けづくりが必要である。

４．**【ヒューマンライブラリーの提案】**そこで私たちは、「ヒューマンライブラリーによる多様性に寛容なまちづくり」を提案する。ヒューマンライブラリー(Human Library)とは、2000 年にデンマークの若者がロックフェステバルの中で始めて開催し、欧州をはじめ世界中に広まった。現在では、多様な人々を結びつける異文化交流のイベントとして約７０カ国で開催されている。坪井ゼミは、５年前から継続的に開催しており、数多くの開催支援を行ってきた実績を持っている。

５．**【ヒューマンライブラリーによるまちづくり】**ヒューマンライブラリーによるまちづくりプランでは、具体的に、地域図書館での定期開催、地域共生の家などでの回り持ち開催などを提案する。生きにくさを抱えた人が担う「生きた本」役は、地区社会福祉協議会や障害者等の NPO の自助グループなどの呼びかけ、区民マジョリティとの交流機会とする。「生きた本」役には地域の高齢者がなってもよい。

６．**【テスト開催の実施による実証】**坪井ゼミは、８月末に世田谷区民対象のヒューマンライブラリーを、世田谷区内の「たまでんカフェ山下」でのまちなかテスト開催を実施し、狭い場所でも開催できること、通りがかりの人も参加できる気軽なイベントとなれることを実証した。

７．**【アソシエーションの設立】**世田谷区の多様性に寛容なまちづくりのために「せたがやヒューマンライブラリーアソシエーション」設立を提案する。まず、坪井ゼミも参加し区役所市民活動推進課や社会福祉協議会、区民有志を中心に設立準備会を作る。その後、区内の大学などいろいろな場所でテスト開催を行い、理解者や支援者を募る。「生きた本」は、区内の自助グループや支援者に呼びかける。そして「せたがやヒューマンライブラリーアソシエーション」を設立する。

８．**【継続開催によって】**ホームページを開設し広報するとともに、学生や市民から運営ボランティアを募り、ヒューマンライブラリーを正式開催する。継続的な正式開催によってヒューマンライブラリーの輪を広げる。その結果、多様性に寛容なせたがやのまちづくりが実現されることになる。これが私たちのまちづくり提案です。

世田谷まちづくり大学生プレゼン大会2014

# ヒューマンライブラリーによる
# 多様性に寛容なまちづくりプラン

駒澤大学社会学科坪井ゼミ3年(30 期生)

## ＜ 私たちの提案 ＞

1. 世田谷区の現状から ---人口構成の多様性
2. 世田谷区の区民交流の場の調査から見えてくるもの
3. 現状分析と調査から見えた問題と課題
   そして、私たちの提案
4. ヒューマンライブラリー(略称 HL)とは何か
5. せたがやヒューマンライブラリーまちづくりプラン
6・ヒューマンライブラリーのまちなかテスト開催実践例
7. せたがやHLアソシエーションの設立に向けて

2014年10月現在

# 1. 世田谷区の現状から―人口構成の多様性

## ①世田谷区の人口は 23 区中 1 位―山梨県の人口に匹敵

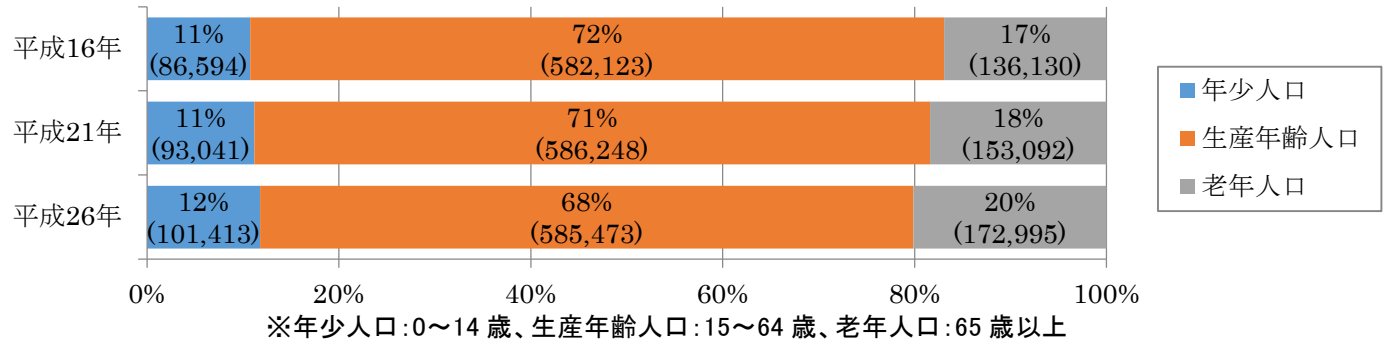
世田谷区の総人口は約 87 万 3 千人で、**23 区内では 1 位**を誇る。また、この数字は、**山梨県の人口 85 万 5 千人に匹敵する。**

## ②老年人口 10 年で 3 万人増加―世田谷区の5人に1人が高齢者

世田谷区の人口を年齢割合別にみると、生産年齢人口が約 70%と最も多く、次いで、高齢人口が約 20%、年少人口が約 10%を占めており幅広い世代の人々が暮らしていることがわかる。

また、図表 1 をみると、平成 16 年から平成 26 年までの 10 年間で、生産年齢人口の割合が減少し、老年人口の割合が増加しており、**世田谷の高齢化の進行**が伺える。

**図表 1　総人口に占める年齢3区分別人口の割合(単位:人)**




※年少人口:0～14 歳、生産年齢人口:15～64 歳、老年人口:65 歳以上

出典:「せたがや統計情報館」内「世田谷区の年齢別人口」、
http://www.city.setagaya.lg.jp/kurashi/107/157/692/694/1885/d00050959.html　2014 年 10 月 14 日アクセス

## ③世田谷に暮らす多様な人々―120 カ国から集まる外国人居住者、多種多様な障害者の増加

世田谷区には **1 万 5 千人**近い外国人が暮らしており、その出身国は **120 ヵ国**にも及び、様々な文化を持つ人びとが暮らしていることがわかる。

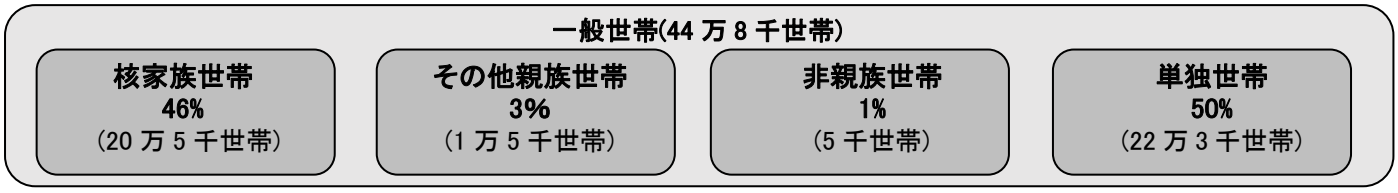
また、世田谷区の障害者数は、平成 15 年の 1 万 8 千人から、平成 25 年には 2 万 4 千人と、**10 年間で 6 千人近く増加している**。更に、一口に障害者といっても、視覚障害や肢体不自由、言語障害などを持つ身体障害者や、知的障害者など、様々な障害を抱えた人々がいる。

## ④多様な産業構成―農業からサービス業まで

世田谷区の産業をみると、**第 3 次産業が 90%**を占めており、次いで**第 2 次産業が 10%**近く占めている。第 1 次産業は割合でみると 1%にも満たないが、世田谷区は、**23 区の中でも有数の農家数**を誇る区でもある。23 区内にはそもそも農家自体が無い区が多い。そんな中、世田谷区は農家数が 222 と練馬区の 352 に次ぐ数である。このことから、世田谷区の多様な産業構成がみえてくる。

## ⑤多様化する世帯構成―小家族化・個人化する家族

**図表 2　世田谷区の世帯分類**




出典「せたがや統計情報館」内「世田谷区内全域の人口と世帯」
http://www.city.setagaya.lg.jp/kurashi/107/157/692/694/1888/d00121945.html　2014 年 10 月 14 日アクセス

・図表 1-2 をみると、世田谷区一般世帯のうち**核家族世帯**と**単独世帯**が合わせて **95%**近くを占めている。
・家族が、細分化、小家族化して、人びとの生活単位も個人化が進んでいると考えられる。
・高齢者の増加と合わせて考えると、核家族や単独世帯の増加が、身近な高齢者の孤立化を促進させ、若者と高齢者の世代間の交流の機会を奪っていると考えられる。

参考

≪外国人・障害者≫「せたがや統計情報館」内「世田谷区の統計書」、
http://www.city.setagaya.lg.jp/kurashi/107/157/692/694/1887/d00050936.html　2014 年 10 月 14 日アクセス
「せたがや統計情報館」内「世田谷区内全域の人口と世帯」
http://www.city.setagaya.lg.jp/kurashi/107/157/692/694/1888/d00121945.html　2014 年 10 月 14 日アクセス
「東京都の統計」内「外国人人口」
http://www.city.setagaya.lg.jp/kurashi/107/157/692/694/1888/d00121945.html　2014 年 10 月 14 日アクセス
≪産業≫「東京都の統計」内「2010 年農林業センサス東京都結果報告(確報値)」、
http://www.toukei.metro.tokyo.jp/nourin/2010/ng10t00000.htm　2014 年 10 月 14 日アクセス
「せたがや統計情報館」内「世田谷区の統計書」
http://www.city.setagaya.lg.jp/kurashi/107/157/692/694/1887/d00050936.html　2014 年 10 月 14 日アクセス

# 2. 世田谷区の区民交流の場の調査から見えてくるもの

## ① 世田谷区内の区民交流の場所と交流団体

**世田谷区内には、635 の多様な交流施設がある。/交流団体は、NPO 団体など延べ 1568 団体ある。**

| 世田谷区公共施設 | | 民間運営施設 | | |
|---|---|---|---|---|
| 区民センター・集会所等<br>区立図書館<br>社会福祉協議会<br>高齢者関連施設<br>障害者関連施設<br>区立教育施設<br>運動施設・公園・農園等<br>(株)世田谷サービス公社　総合支所<br>まちづくりセンター　など | | NPO・コミュニティカフェ/スペース | なかまち NPO センター(NPO)<br>岡さんの家 TOMO<br>たまでんカフェ山下(NPO)<br>茶論ワンコイン<br>COS 下北沢(NPO)<br>ふろむあーすカフェ・オハナ<br>リブロ・ニワース　など | |
| | | その他 | ICEC 国際文化交流センター<br>生涯大学　など | |
| 計 | 605 | 計 | | 30 |

| 世田谷区内の分野別 NPO 団体数 | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 保健・医療・福祉 | 256 | 環境保全 | 139 | 学術・文化・芸術・スポーツ振興 | 197 |
| 社会教育 | 286 | 国際協力 | 163 | 職業・雇用支援 | 109 |
| まちづくり | 184 | 子どもの健全育成 | 234 | など | |

※複数の分野において活動する団体がほとんどである。　延べ数 1568

※このうち障害者関連 29 団体、高齢者関連 10 団体、精神病関連 13 団体、外国人関連 3 団体、依存症関連 2 団体、病気関連 4 団体、貧困関連 2 団体、性関連 1 団体、合計 64 団体の自助および支援関連団体がある。

## ② インタビュー調査先　～6 月中旬から 8 月中旬までの 2 か月間～

**私たちは、下記 11 か所の区民交流の場の現状を把握するためにインタビュー調査を実施した。**

- せたがやがやがや館
- 玉川台区民センター
- 区役所文化・国際課
- 区立中央図書館
- たまでんカフェ山下(コミュニティカフェ)
- 茶論ワンコイン(コミュニティカフェ)
- ICEC 国際センター
- 岡さんの家 TOMO(コミュニティカフェ)
- COS 下北沢(コミュニティカフェ)
- なかまち NPO センター
- 生涯大学

計　11 ヵ所

## ③ インタビューを行って見えてきた問題点

施設Aなど（国際交流関連施設）

- 世田谷区には国際交流センターがなく、国際交流団体を総括する仕組みがない。
- 区内の国際活動団体の活動内容・目的が固定化し、団体ごとに活動内容が異なるため交流が難しい。

施設Ｂなど　（区民交流施設）

- 利用者のほとんどがリピーターの高齢者であり、異世代での利用者交流が難しい。
- 施設の利用者・利用団体が固定されており、利用団体内ではメンバーの固定化が多くみられる。

施設Ｃなど（NPO 関連施設）

- NPO 団体同士の横のつながりや連携が希薄である。
- 防災ワークショップなど「防災」をテーマに連携を図ろうとしているが、参加団体が少ない。
- NPO 同士の連携は、目的外活動に割く人員・資金等が乏しいため難しい。

**まとめ**　**・交流施設の利用団体の固定化、団体メンバーの固定化がある。・仲間同士の交流活動でマンネリ化と停滞がある。・異文化間・異質な団体間の交流活動がみられない。**

※ NPO 団体は「世田谷区ホームページ」内「NPO 法人」(http://www.city.setagaya.lg.jp/kurashi/101/166/2308/d00005002.html　2014 年 10 月 15 日アクセス)、世田谷区公共施設は「世田谷区ホームページ」内「施設」(http://www.city.setagaya.lg.jp/shisetsu/　2014 年 10 月 14 日アクセス)に載っている施設のうち、区民の交流が行われていると思われる施設の合計である。また、コミュニティカフェ/スペースは公式の統計資料がないため、「戦うオヤジの応援団」内「全国のコミュニティカフェ一覧」(http://tatakauoyaji.com/Closeup/Network/community_cafe.htm　2014 年 10 月 14 日アクセス)、「一般財団法人世田谷トラストまちづくり」(http://www.setagayatm.or.jp/trust/support/ie_system/index.html　2014 年 10 月 14 日アクセス)に掲載しているものの合計である。

## 3. 現状分析と調査から見えた問題・課題--そして、私たちの提案

### ①「世田谷区の現状から」の問題点

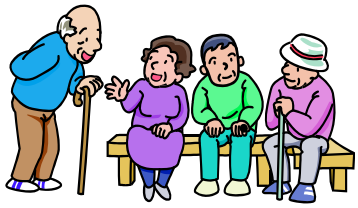
世田谷区は23区中1位の人口を抱えており、年齢、国籍、職業、障害など多面的に見て多種多様な人々が住んでいるが、区の世帯は小家族化されており、核家族世帯と単独世帯が大半である。

⇒何らかのコミュニティに所属していなければ人との交流の機会は限られてしまう。

### ②「世田谷区の区民交流の場」の問題点

施設や団体で構成されるコミュニティは、サークルのように同質的で固定化されている。また、活動内容も固定化し、資金や人的資源も不足していることから新たな活動にチャレンジする余裕がない。

⇒自分たちと異なるコミュニティと交流する機会がないばかりか流動性に欠け、新しいメンバーが参加しにくい。



### ③調査から見えた課題

- 世田谷区のさらなる活性化のためには区民の誰もが気軽に参加可能な交流の場を設けることが必要である。
- それは同質的なかかわりばかりではなく、異なる文化を持つ人同士の交流も可能とするものでなくてはならない。

### ④私たちの提案

そこで私たちは、

**「ヒューマンライブラリーによる多様性に寛容なまちづくりプラン」**

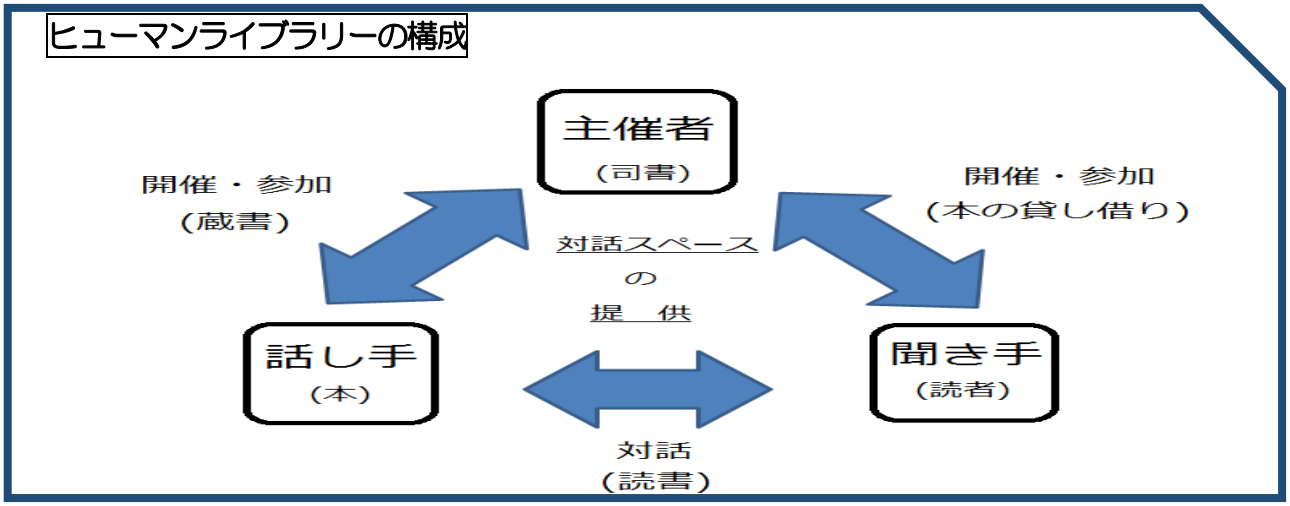
を提案します！

# 4. ヒューマンライブラリー(Human Library：略称 HL)とは何か？

ここではヒューマンライブラリー(以下 HL、別名「生きている図書館」)について紹介する。

## ヒューマンライブラリー (HL) とは

話し手を「生きた本」、聞き手を「読者」に見立てた対話形式の一種のお話会。2000 年にデンマークで開催されて以来、多文化共生のコミュニティづくりのツールとして世界に広がり、2014 年現在 70 カ国で開催されている。日本でも 2008 年以来、これまで数十回以上行われている。駒澤大学坪井ゼミでは、2010 年に初開催して以来、継続して過去６回の直接開催ほか、他団体の開催を数多く支援して来た。




HL では社会的マイノリティ(=生きにくさ)を抱えた人が「話し手」(生きた本)となり、関心を持った一般の人を「聞き手」(読者)として１対１～３程度の少人数での対話をする。主催者は HL の企画・運営(司書)として話し手・聞き手の対話サポートを行う。

## ヒューマンライブラリーの流れ

## ヒューマンライブラリーの利点　→　心のバリアを溶かす体験ができる。

- ヒューマンライブラリーは、身体障害者、性同一性障害、難病、ホームレス、難民、元引きこもり、見た目に問題を抱えた人など、日ごろ接する機会のない、異質な人たちとの交流の場面を作る。
- 大人数の講演会とは違い、少人数での対話は生きにくさに対しての理解が深まり、誤解・偏見の低減につながる。
- 直接対話することで、「生きた本」の話し手への共感が高まり、**心のバリアを溶かす。**

**異質な他者に気づき・多様性に寛容な心を育てるきっかけとなる**

# 5. せたがやヒューマンライブラリーまちづくりプラン

ヒューマンライブラリー(Human Library：略称 HL)

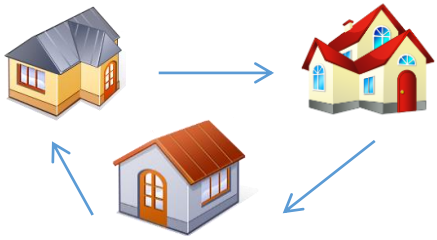
開催プラン・スペースの提案

## Ex.1 地域図書館における月例開催プラン

- 「毎月第〇土曜日」など、月１回の開催日を決め、「大人のお話会」として HL を開催。
- 「静かな」HL として、ろうあ者の方を「本」として呼び、筆談 HL の開催。

今まで子ども向けの「おはなし会」がイベントの中心だった図書館で「大人のお話会」（＝HL）を開催。
普段接する機会の少ない「本」の方々との対話を通して、「心のバリアを溶かす」体験をしてもらう。
図書館という、誰でも足を運びやすい場所で HL を開催することで、“敷居”の低いイベントになりうる。

## Ex.2 世田谷トラストまちづくり「地域共生のいえ」の連携による開催プラン



- 区内 15 か所ある“地域共生のいえ”で月１回の HL の開催。
- 同時開催や月ごとの回り持ち当番制で開催する。
- 「読者」は地域住民を対象にする。
- 「本」はマイノリティの方と限らず、地域住民にも「生きている本」となってもらう。

連携した同時開催型の HL を行うことで、“地域共生のいえ”内のつながりが強固なものになる。
地域住民がお互いを知り、相互理解を深める機会になる。

「生きている本」の提案

## Ex.3 社会福祉協議会と連携した開催プラン

- 地区社会福祉協議会と連携し、それぞれの地区に応じた HL を開催する。
- 地区の抱える問題やニーズに応じた「本」を設定する。

それぞれの地区ごとに抱える問題は違うので、ニーズに応じた HL を開催する。
HL を通して、地区の問題を解消に近づける。

## Ex.4 区内自助グループと 連携した「生きている本」の提案

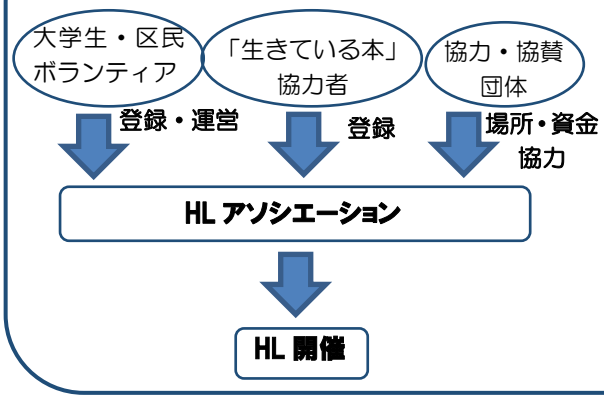
- 区内の障害者やマイノリティを抱えた人々の自助団体に呼びかけ、「生きている本」として HL に出演してもらう。

自助団体と地域社会がつながる場となる。
地域住民のマイノリティの認知につながる。

**しかし**

区の交流施設やコミュニティカフェで取材で HL 開催の提案を行ってきたが、
「自分たちの活動で手いっぱい」「マンパワー、資金が足りない」など、
「人材面」「資金面」の問題が明らかに･･･
そこで**「ヒューマンライブラリーアソシエーション」を結成する！**

## Ex.5 せたがや HL アソシエーションの設立




- 各プラン実施には、当日運営のスタッフ、「本」協力者、協賛・協力団体、運営のシステムが必要。
- 当日運営スタッフ→インカレ団体のように、区内の大学に通う学生スタッフ・地域の有志の方々。
- 「本」協力者→「自分も HL に出演したい」人にあらかじめ登録してもらい、都合の良い日・ニーズに合った HL に参加してもらう。
- 協賛・協力団体→区内の NPO、地域の商店。場合によっては商店街の空きスペースなど場所の提供をしてもらう。少額をつのり、運営費用とする。

「マンパワー」「資金面」の問題を解消し、システムを作ることで HL がより身近になり、開催しやすく・参加しやすくなる。

# 6. ヒューマンライブラリーのまちなかテスト開催実践例

私たちは、これまで「ヒューマンライブラリー」を学内で開催してきたが、多様性に寛容なまちづくりを目指して、今回初めて世田谷区のまちなかで HL のテスト開催を実施した。

**テスト開催の概要・プログラム**

日時：2014 年 8 月 30 日（土）／スタッフ：坪井ゼミ 30 期生 6 人

会場：たまでんカフェ山下（NPO 法人「まちこらぼ」が運営するコミュニティカフェ）

**①言語障害者・実方さん**

タイトル：しゃべれないことは話せないこと？

言葉はうまく話せないけれども、コミュニケーションはできるとアピールするマイノリティの方。

**②眼瞼下垂・フレイクさん**

タイトル：僕は生まれつきまぶたを上げる力が弱い病気

常に左まぶたが下がっているため、見た目に問題があり人から誤解されやすいフレイクさんは、こんな病気があるということを、一般の人々に理解してほしいという思いを伝えようとする。

**③振り返り会**

スタッフ全員、「まちこらぼ」代表の柴田さん、「生きた本」協力者全員で、今回の HL について感じたこと、気づいたことをお互いに交流しながら、次の HL 開催へと展望について語る。

★当日の様子

フレイクさん対話中
「僕は生まれつきまぶたを挙げる力が弱い病気」

世田谷線「山下駅」構内・会場外の様子

**今回のテスト開催から得たこと**

- まちなかの狭いコミュニティカフェで開催できるということを実証した。
- マイノリティの方への理解を深めて、「ココロのバリア」を溶かす場となった。
- まちなか開催で、通りかかった人々も参加して、地域住民の相互理解の場にもなった。

# 7. せたがや HL アソシエーションの設立に向けて

## ① 設立準備会の発足

・区の市民活動推進課・世田谷区立図書館・NPO法人・ボランティアセンター・社会福祉協議会等をベースに準備会を発足させる。
・駒澤大学坪井ゼミ等、各大学の学生有志・住民有志も「せたがや HL アソシエーション」の設立準備会に参加しサポートする。

## ②支持者を増やすために―テスト開催

・アソシエーション結成のためには、HL の理解者、支持者が不可欠。そのために区内の各大学でテスト開催を行う。
・「区民祭り」「雑居まつり」等の区内イベント・商店街の空きスペースを利用して、テスト開催を実施し HL を積極的にアピールする。
**⇒区内での HL テスト開催の場を増やすことで、区民に HL の魅力・面白さをアピール。新たな「生きた本」発掘のチャンスにもなる。**

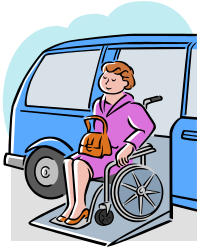
## ③「生きた本」への参加を呼び掛ける

・テスト開催の「生きた本」協力者をベースに、「生きた本」協力者の区民参加への輪を広げる。
・区内の自助グループ、障害者支援グループ・NPO団体・町内会等、生きにくさを抱えた個人に呼び掛け、HL の「生きた本」としての参加と登録を呼びかける運動を起こす。
**⇒世田谷区ならではの「生きた本の書庫」の完成。**

## ④HL アソシエーションの正式な設立

・規約/役員/事務所/ホームページの設置と作成。
・区民への参加広報の開始

## ⑤支援者・開催ボランティアの募集

・ホームページやチラシ等でアソシエーションの協賛団体・個人への呼びかけを行う。
・開催・運営に協力したいという学生・区民ボランティアを継続的に募集する活動実施する。

# 多様性に寛容な世田谷区の実現へ！